

「環境問題に関する世論調査」の概要

平成26年9月
内閣府政府広報室

調査対象	全国20歳以上の者 3,000人 有効回収数 1,834人（回収率61.1%） 調査期間 平成26年7月24日～8月3日（調査員による個別面接聴取）
調査目的	環境問題に関する国民の意識を調査し、今後の施策の参考とする。
調査項目	1 自然に対する関心 2 エコリズム 3 生物多様性 4 絶滅危惧種
調査実績	「環境問題に関する世論調査」 平成24年6月（標本数 全国20歳以上 3,000人 有効回収数 1,912人） 平成21年6月（標本数 全国20歳以上 3,000人 有効回収数 1,919人） 「自然の保護と利用に関する世論調査」 平成18年6月（標本数 全国20歳以上 3,000人 有効回収数 1,834人） 平成13年5月（標本数 全国20歳以上 3,000人 有効回収数 2,072人） 平成8年11月（標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 3,493人） 平成3年6月（標本数 全国20歳以上 3,000人 有効回収数 2,253人）

1 自然に対する関心

(1) 自然に対する関心

- ・ 関心がある (小計)
 - ・ 非常に関心がある
 - ・ ある程度関心がある
- ・ 関心がない (小計)
 - ・ あまり関心がない
 - ・ まったく関心がない

平成 24 年 6 月

平成 26 年 7 月

90.4% → 89.1%

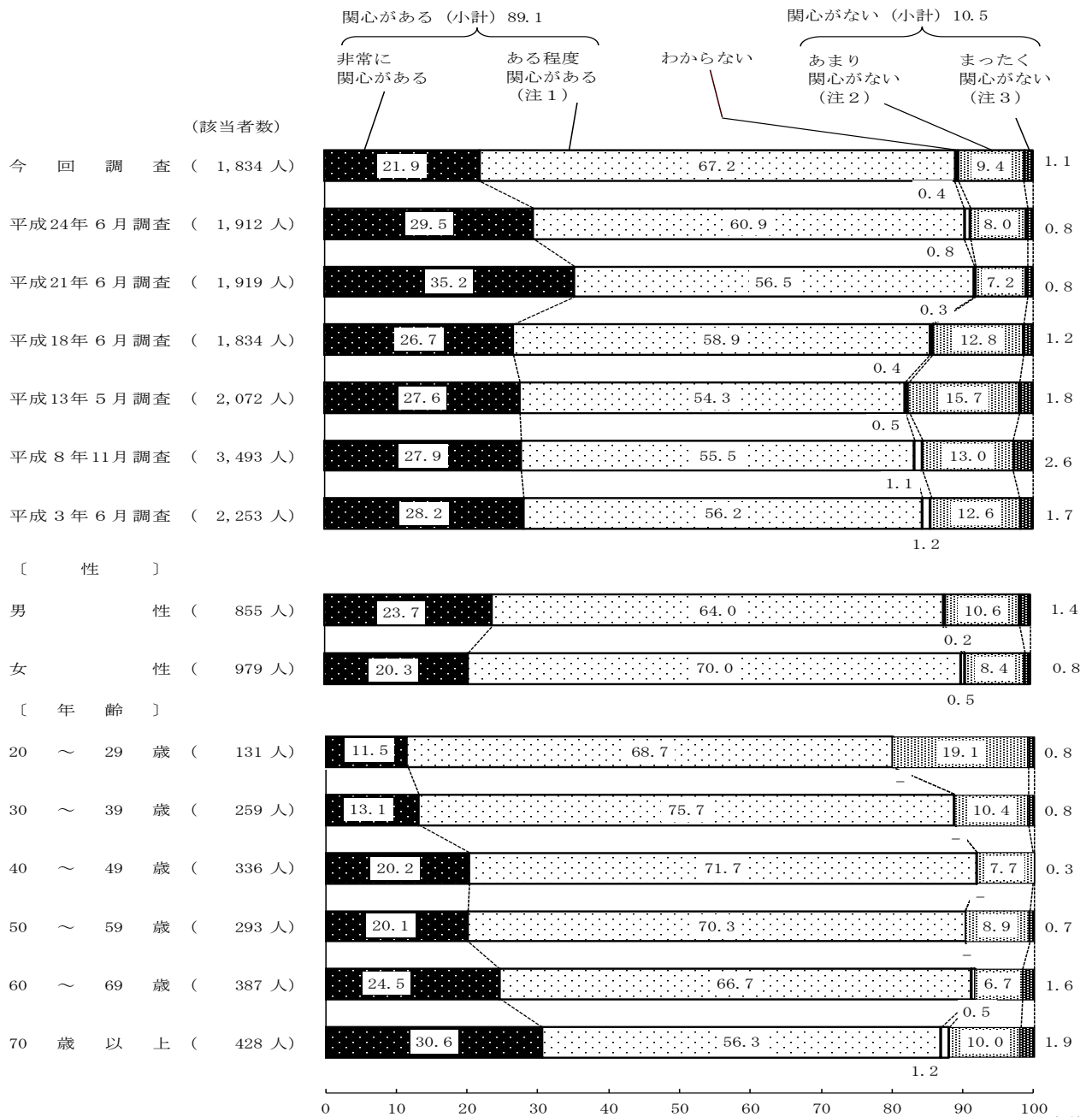
29.5% → 21.9% (減)

60.9% → 67.2% (増)

8.8% → 10.5%

8.0% → 9.4%

0.8% → 1.1%



(注1) 平成18年6月調査までは、「どちらかといえば関心がある」となっている。

(注2) 平成8年11月調査までは、「どちらかといえば関心がない」となっている。

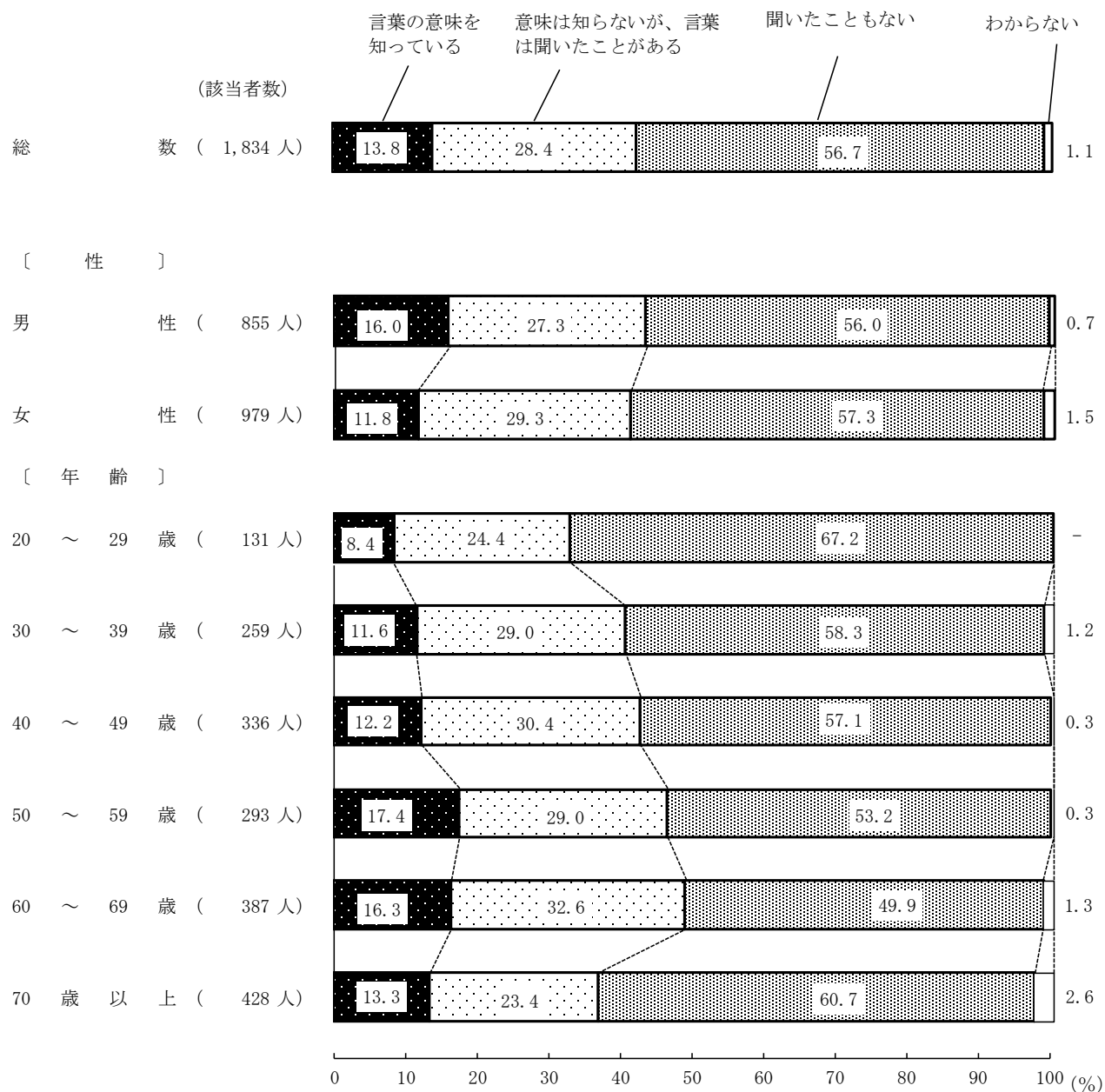
(注3) 平成18年6月調査までは、「全然(全く)関心がない」となっている。

2 エコツアーリズム

(1) エコツアーリズムの言葉の認識度

平成 26 年 7 月

- ・言葉の意味を知っている 13.8%
- ・意味は知らないが、言葉は聞いたことがある 28.4%
- ・聞いたこともない 56.7%



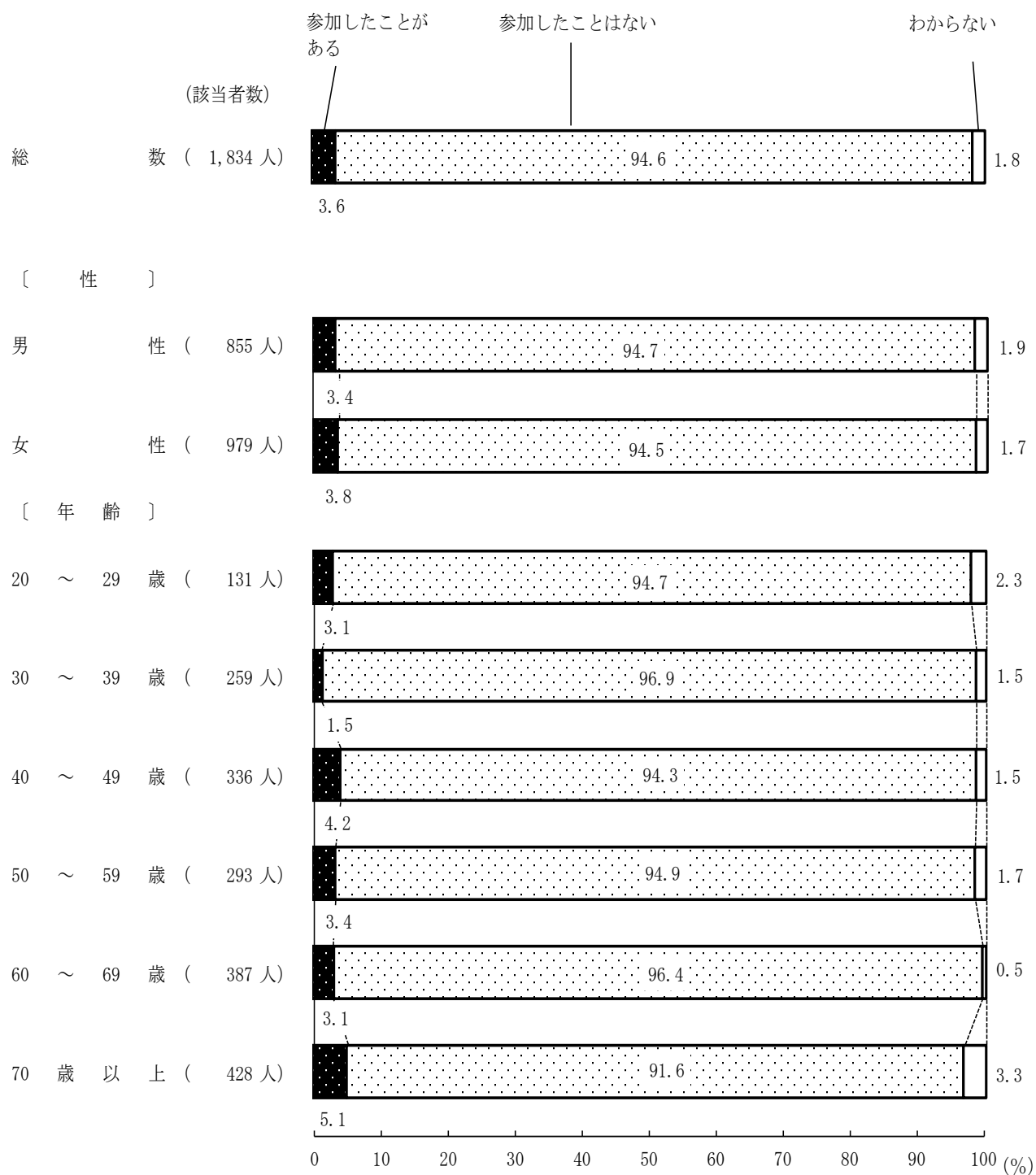
(2) エコツアーへの参加状況

平成 26 年 7 月

- ・ 参加したことがある
- ・ 参加したことはない

3.6%

94.6%

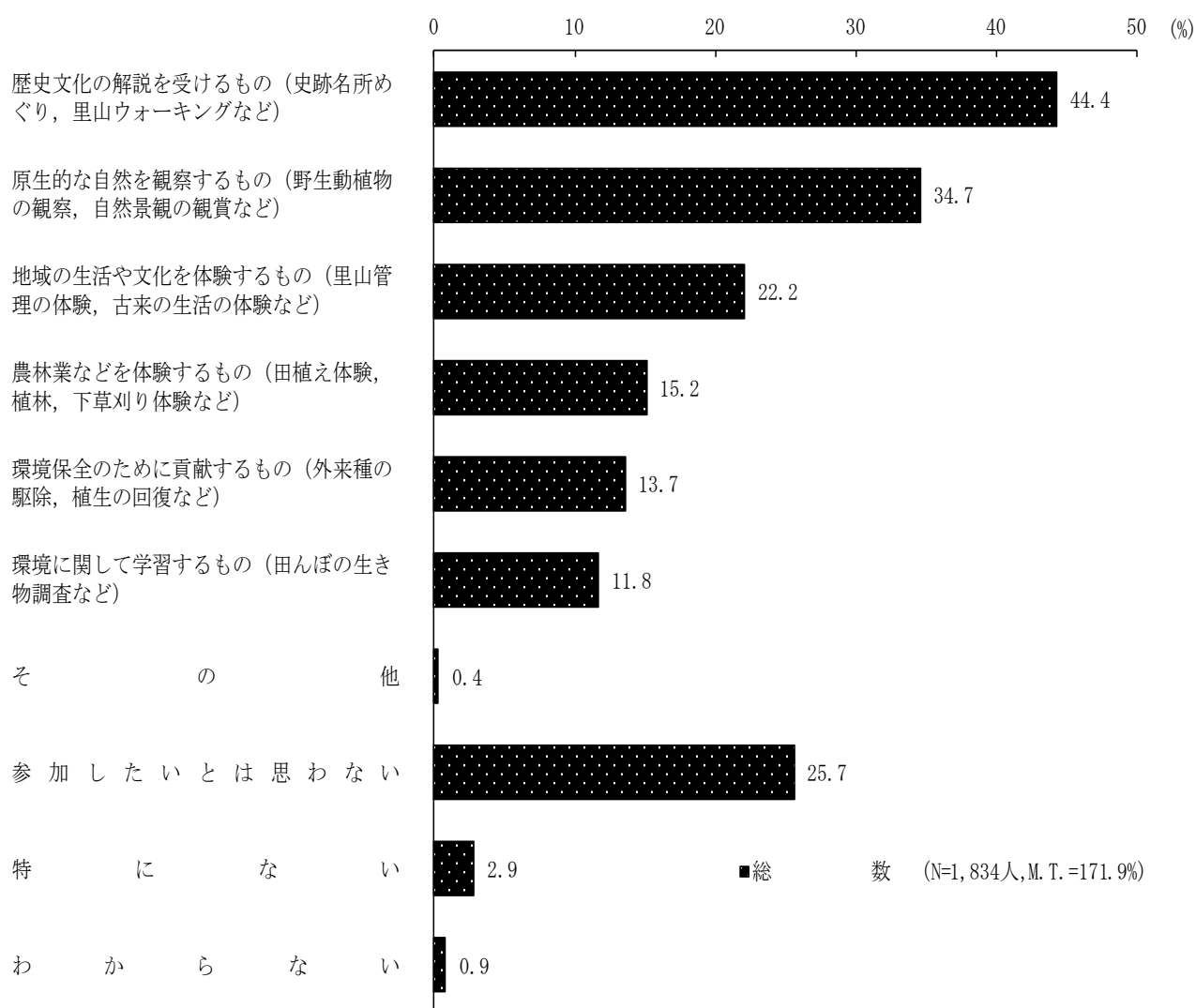


(3) 参加したいエコツアーの種類

(複数回答、上位3項目)

平成26年7月

- ・ 歴史文化の解説を受けるもの（史跡名所めぐり，里山ウォーキングなど） 44.4%
- ・ 原始的な自然を観察するもの（野生動植物の観察，自然景観の鑑賞など） 34.7%
- ・ 地域の生活や文化を体験するもの（里山管理の体験，古来の生活の体験など） 22.2%
- ・ 参加したいとは思わない 25.7%



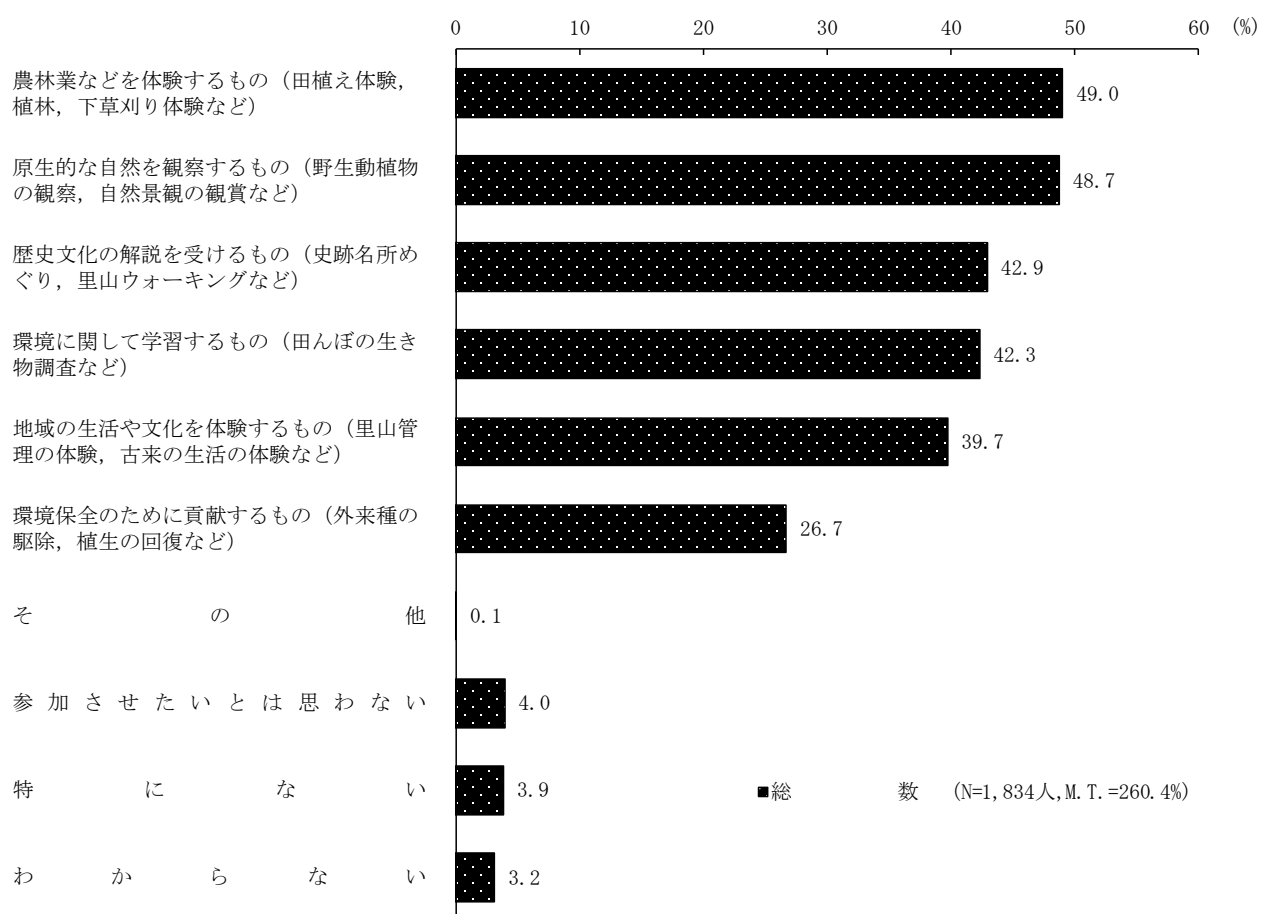
(4) 子どもに参加させたいエコツアーの種類

(複数回答, 上位5項目)

平成26年7月

- ・農林業などを体験するもの(田植え体験, 植林, 下草刈り体験など) 49.0%
- ・原生的な自然を観察するもの(野生動植物の観察, 自然景観の鑑賞など) 48.7%
- ・歴史文化の解説を受けるもの(史跡名所めぐり, 里山ウォーキングなど) 42.9%
- ・環境に関して学習するもの(田んぼの生き物調査など) 42.3%
- ・地域の生活や文化を体験するもの(里山管理の体験, 古来の生活の体験など) 39.7%

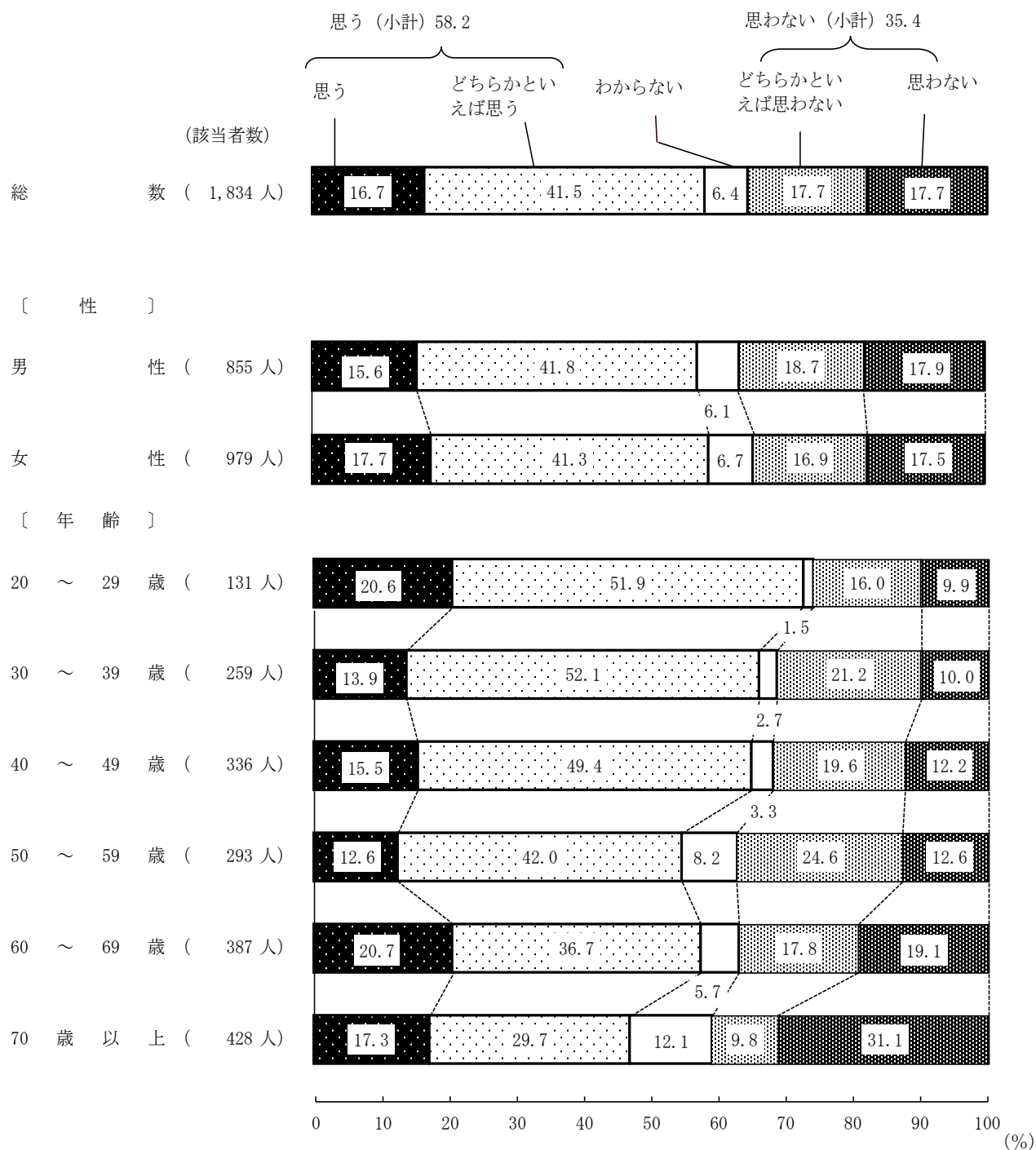
(複数回答)



(5) エコツーリズムによる地域づくり

平成 26 年 7 月

・ 思う (小計)	58.2%
・ 思う	16.7%
・ どちらかといえば思う	41.5%
・ 思わない (小計)	35.4%
・ どちらかといえば思わない	17.7%
・ 思わない	17.7%

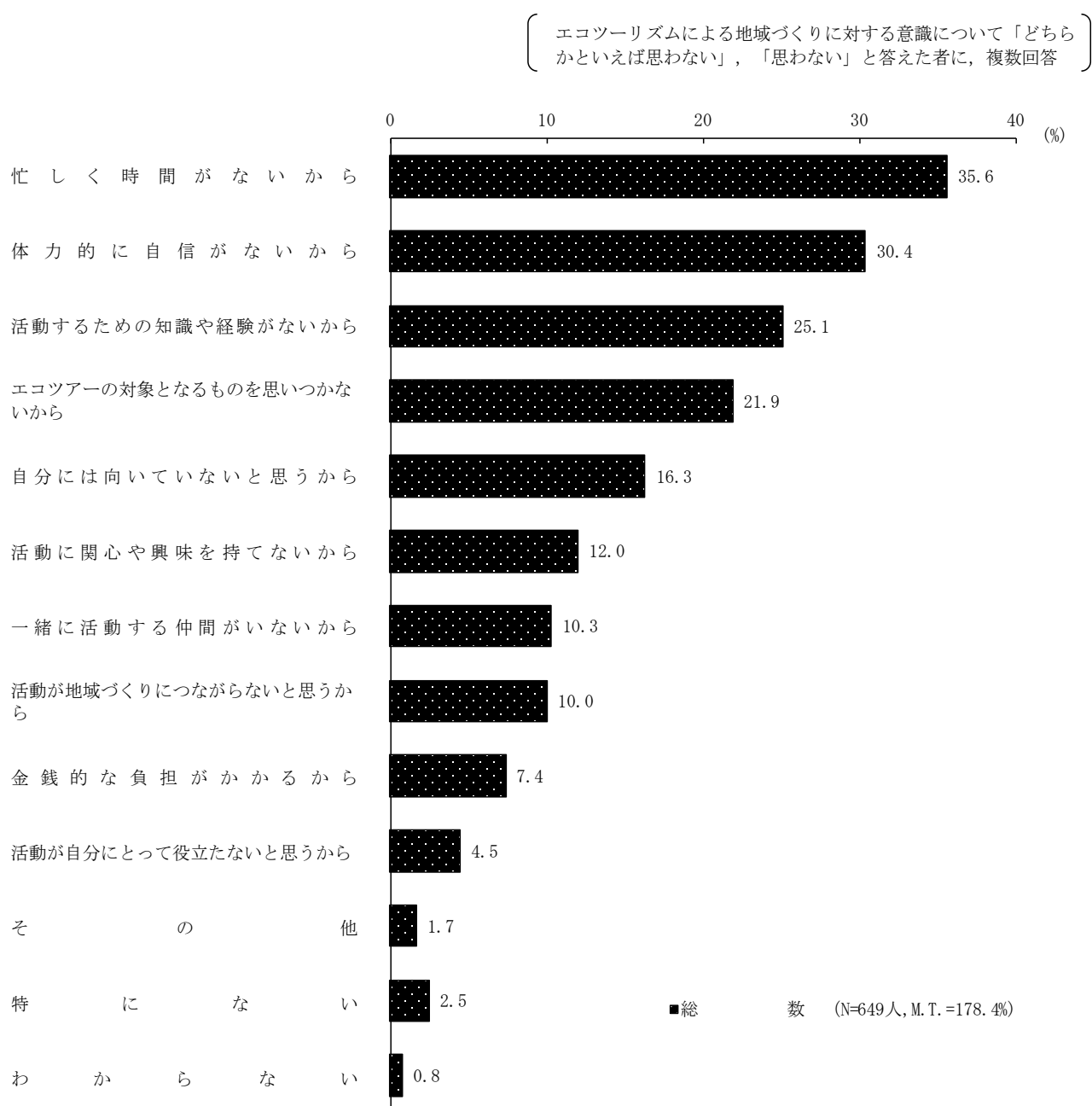


(エコツーリズムによる地域づくりに対する意識について、「どちらかといえば思わない」、「思わない」と答えた者(649人)に)

ア エコツーリズムによる地域づくりを行いたいと思わない理由 (複数回答, 上位4項目)

平成26年7月

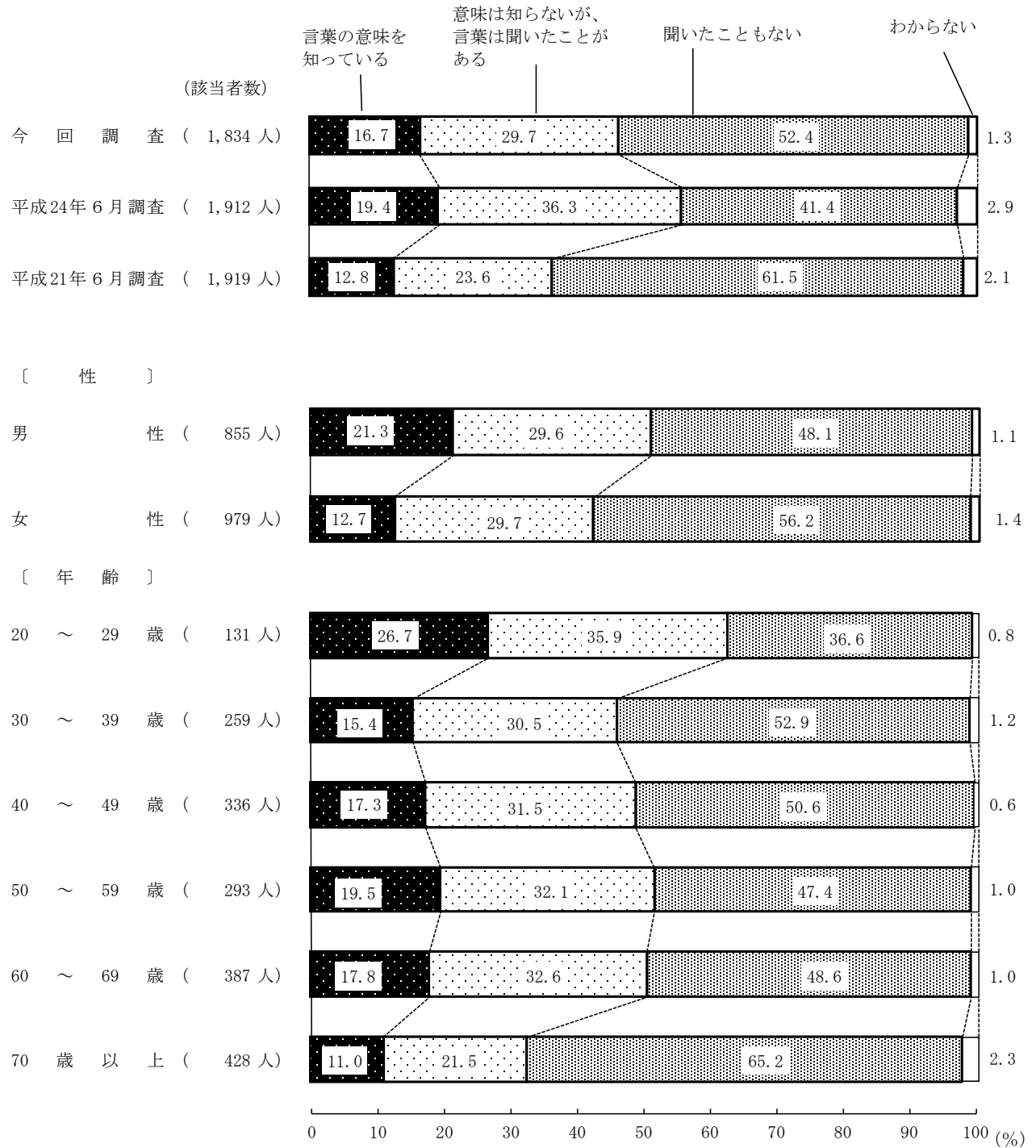
- ・忙しく時間がないから 35.6%
- ・体力的に自信がないから 30.4%
- ・活動するための知識や経験がないから 25.1%
- ・エコツアーの対象となるものを思いつかないから 21.9%



3 生物多様性

(1) 生物多様性の言葉の認識度

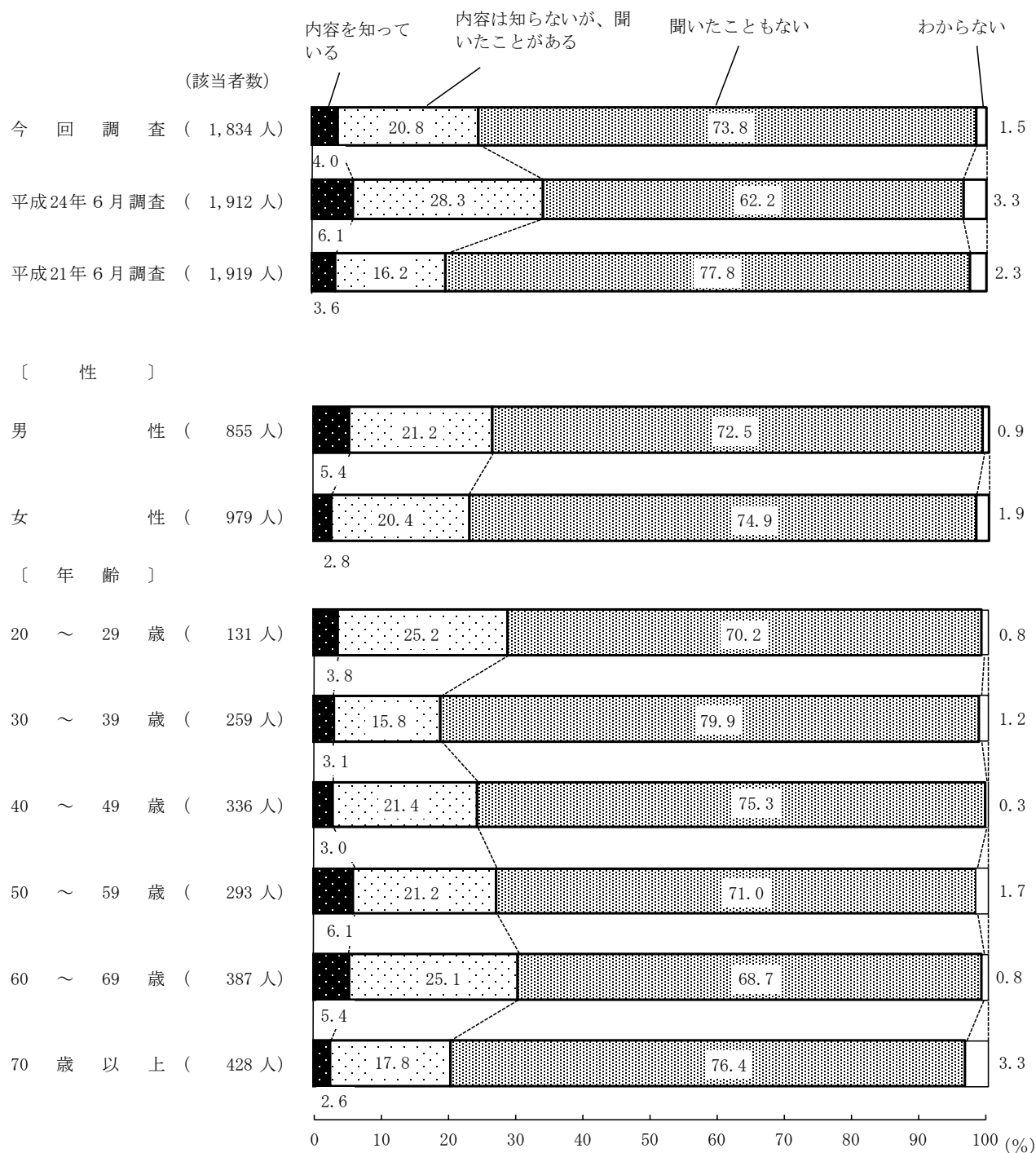
	平成 24 年 6 月		平成 26 年 7 月
・言葉の意味を知っている	19.4%	→	16.7% (減)
・意味は知らないが、言葉は聞いたことがある	36.3%	→	29.7% (減)
・聞いたこともない	41.4%	→	52.4% (増)



（２）生物多様性国家戦略の認識度

- ・ 内容を知っている
- ・ 内容は知らないが、聞いたことがある
- ・ 聞いたこともない

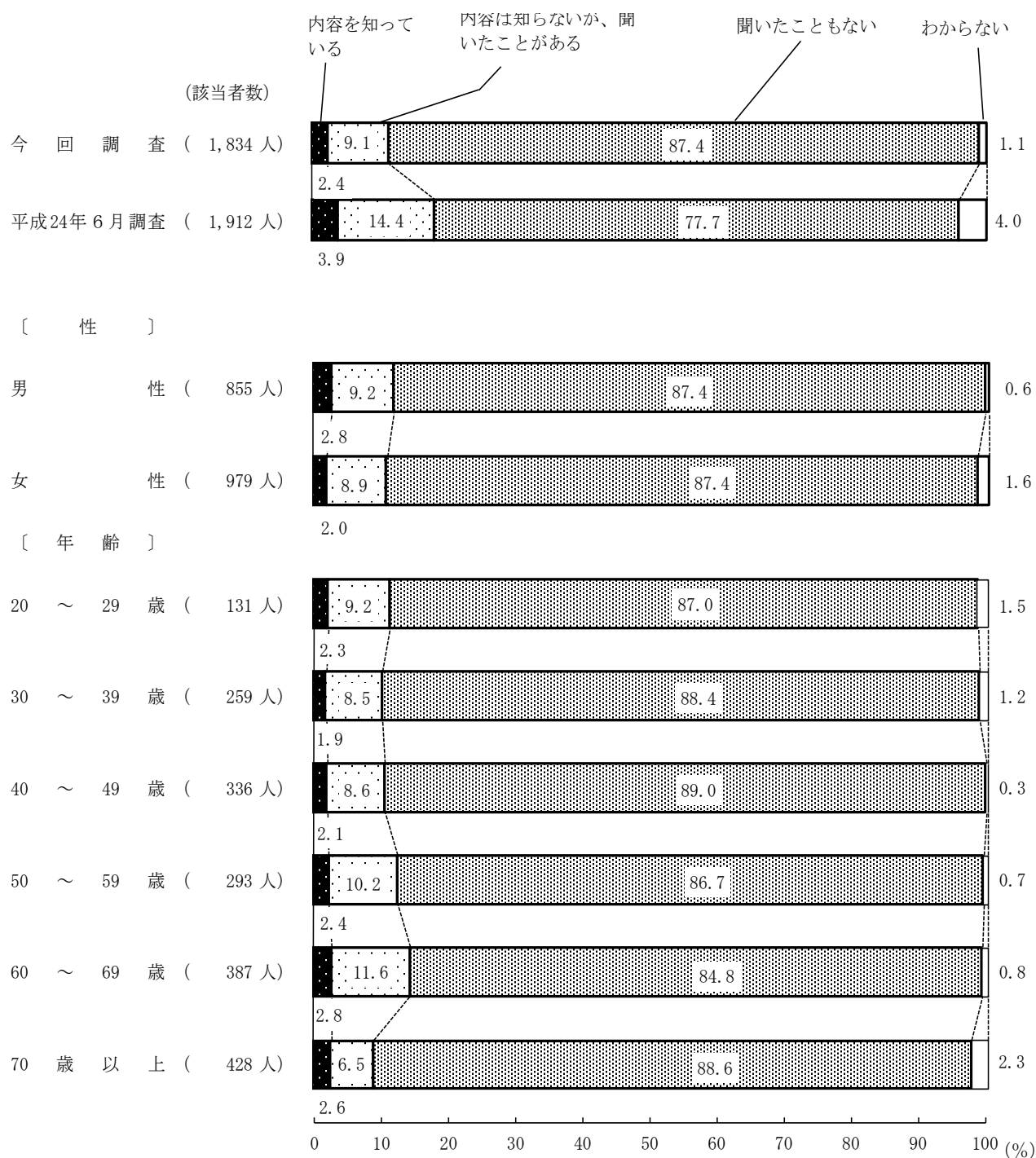
平成 24 年 6 月	平成 26 年 7 月
6.1%	→ 4.0% (減)
28.3%	→ 20.8% (減)
62.2%	→ 73.8% (増)



(3) 愛知目標の認識度

- ・ 内容を知っている
- ・ 内容は知らないが、聞いたことがある
- ・ 聞いたこともない

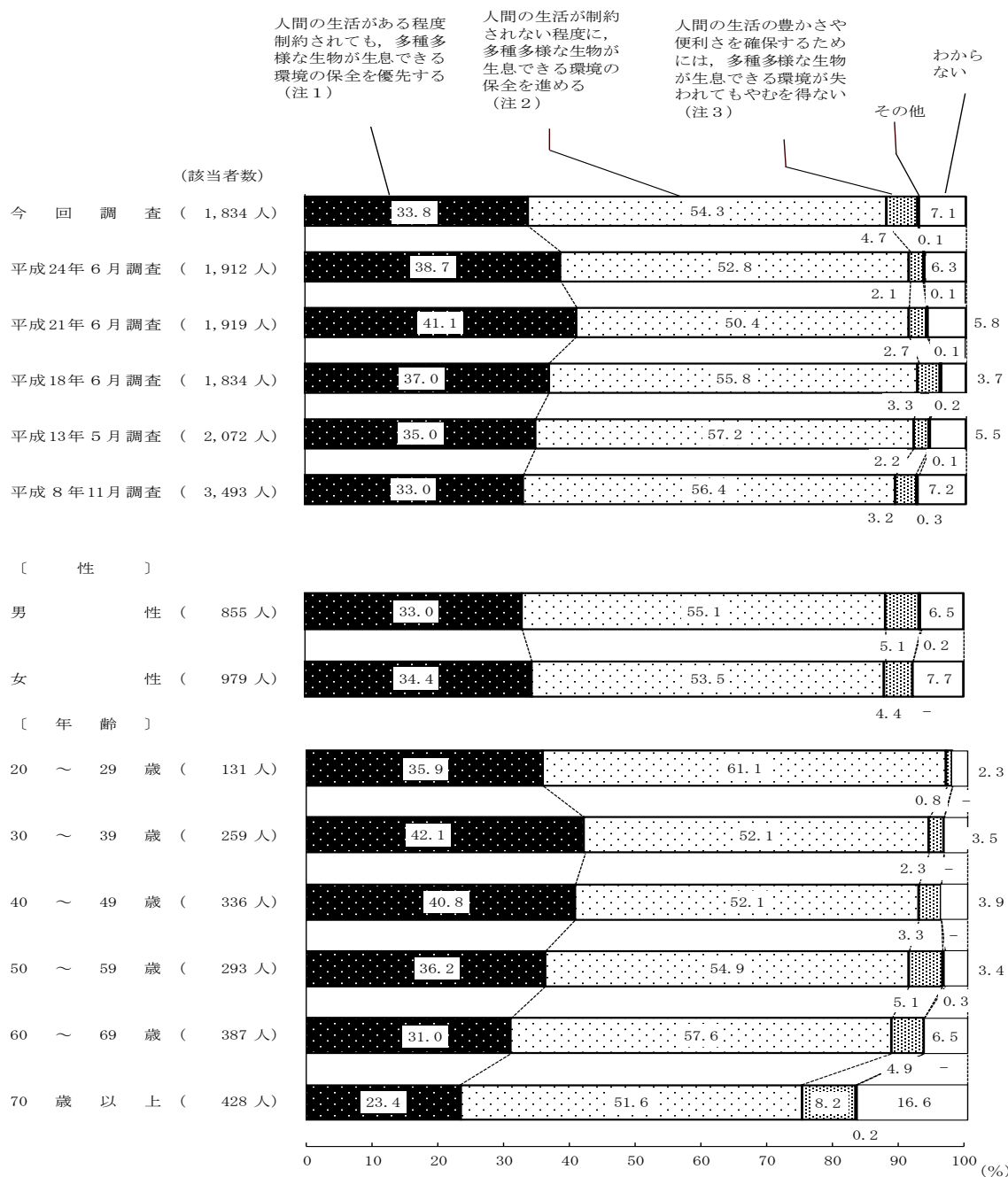
	平成 24 年 6 月		平成 26 年 7 月
	3.9%	→	2.4% (減)
	14.4%	→	9.1% (減)
	77.7%	→	87.4% (増)



(4) 生物多様性の保全のための取組に対する意識

平成 24 年 6 月 平成 26 年 7 月

- ・ 人間の生活がある程度制約されても、多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先する 38.7% → 33.8% (減)
- ・ 人間の生活が制約されない程度に、多種多様な生物が生息できる環境の保全を進める 52.8% → 54.3%
- ・ 人間の生活の豊かさや便利さを確保するためには、多種多様な生物が生息できる環境が失われてもやむを得ない 2.1% → 4.7% (増)



(注 1) 平成 8 年 11 月調査では、「人間の生活がある程度制約されても、多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先すべきである」となっている。

(注 2) 平成 8 年 11 月調査では、「人間の生活が制約されない程度に、多種多様な生物が生息できる環境の保全を進めるべきである」となっている。

(注 3) 平成 13 年 5 月調査までは、「生活の豊かさや便利さを確保するためには、多種多様な生物が生息できる環境が失われてもやむを得ない」となっている。

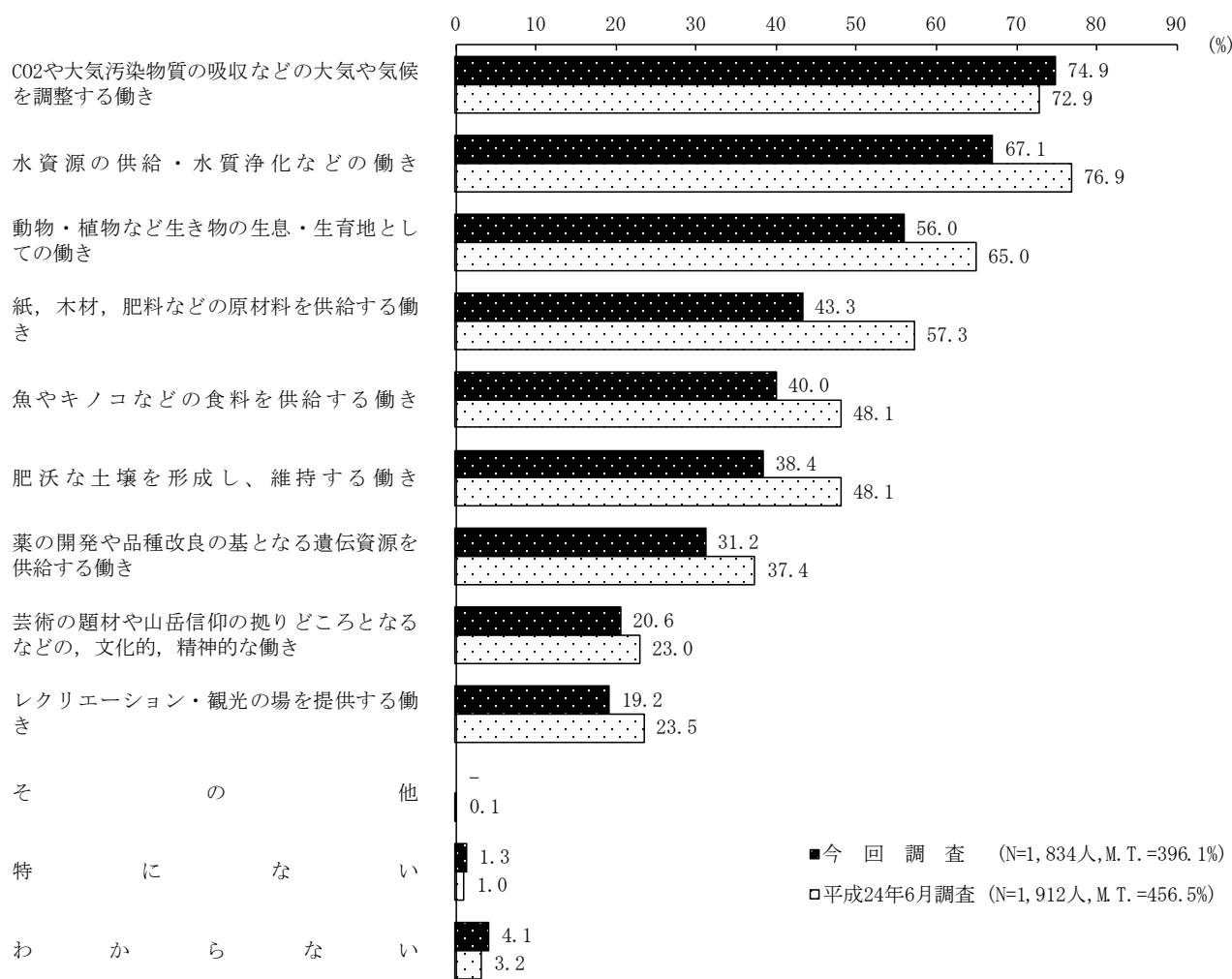
(5) 生態系サービスの価値に対する意識

(複数回答, 上位6項目)

平成24年6月 平成26年7月

・CO2や大気汚染物質の吸収などの大気や気候を調整する働き	72.9%	→	74.9%
・水資源の供給・水質の浄化などの働き	76.9%	→	67.1% (減)
・動物・植物など生き物の生息・生育地としての働き	65.0%	→	56.0% (減)
・紙, 木材, 肥料などの原材料を供給する働き	57.3%	→	43.3% (減)
・魚やキノコなどの食料を供給する働き	48.1%	→	40.0% (減)
・肥沃な土壌を形成し, 維持する働き	48.1%	→	38.4% (減)

(複数回答)

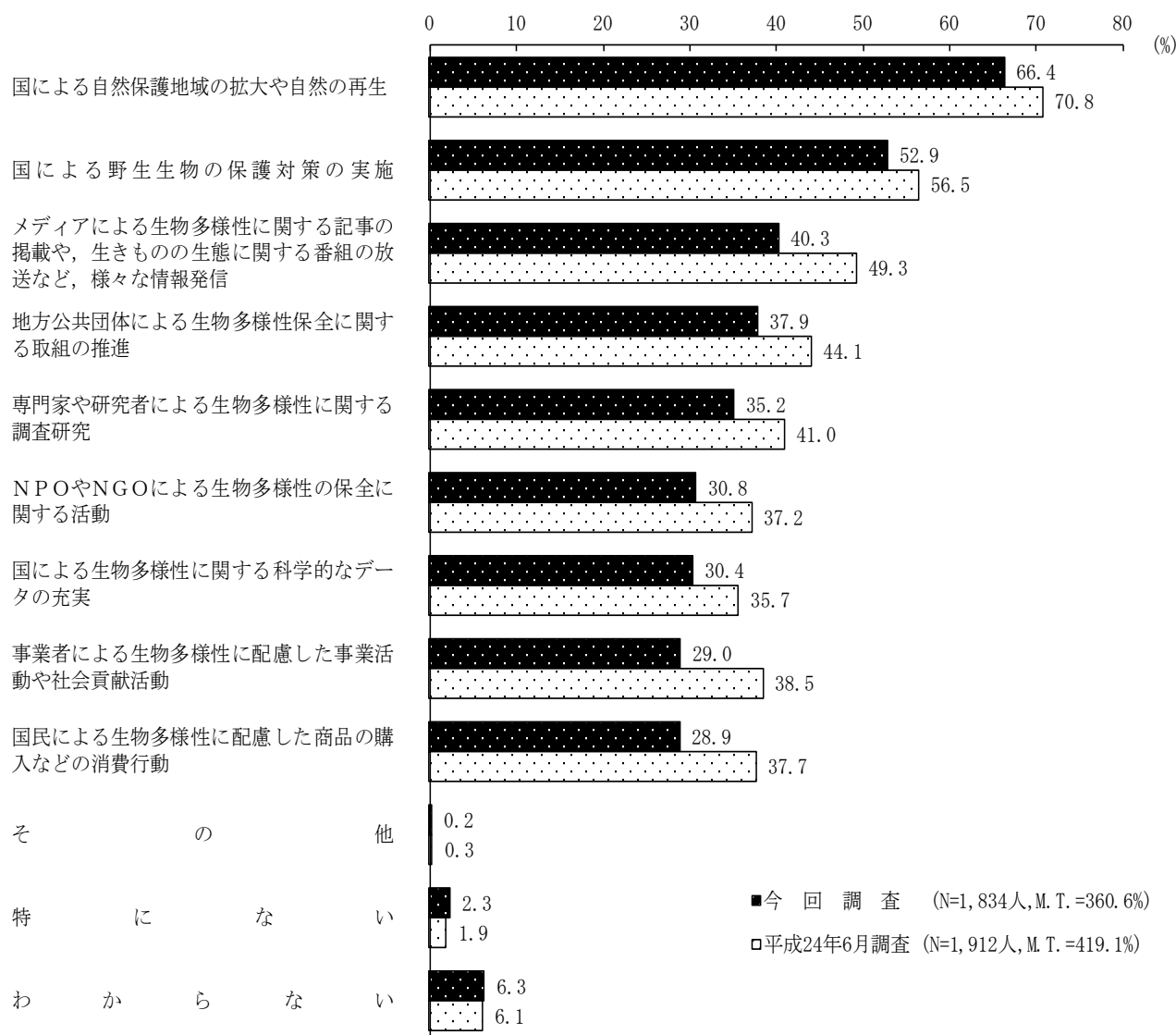


(6) 生物多様性の保全と多様なセクターの取組との関わり

(複数回答, 上位5項目)

	平成24年6月	平成26年7月
・国による自然保護地域の拡大や自然の再生	70.8%	→ 66.4% (減)
・国による野生生物の保護対策の実施	56.5%	→ 52.9% (減)
・メディアによる生物多様性に関する記事の掲載や, 生きものの生態に関する番組の放送など, 様々な情報発信	49.3%	→ 40.3% (減)
・地方公共団体による生物多様性に関する取組の推進	44.1%	→ 37.9% (減)
・専門家や研究者による生物多様性に関する調査研究	41.0%	→ 35.2% (減)

(複数回答)



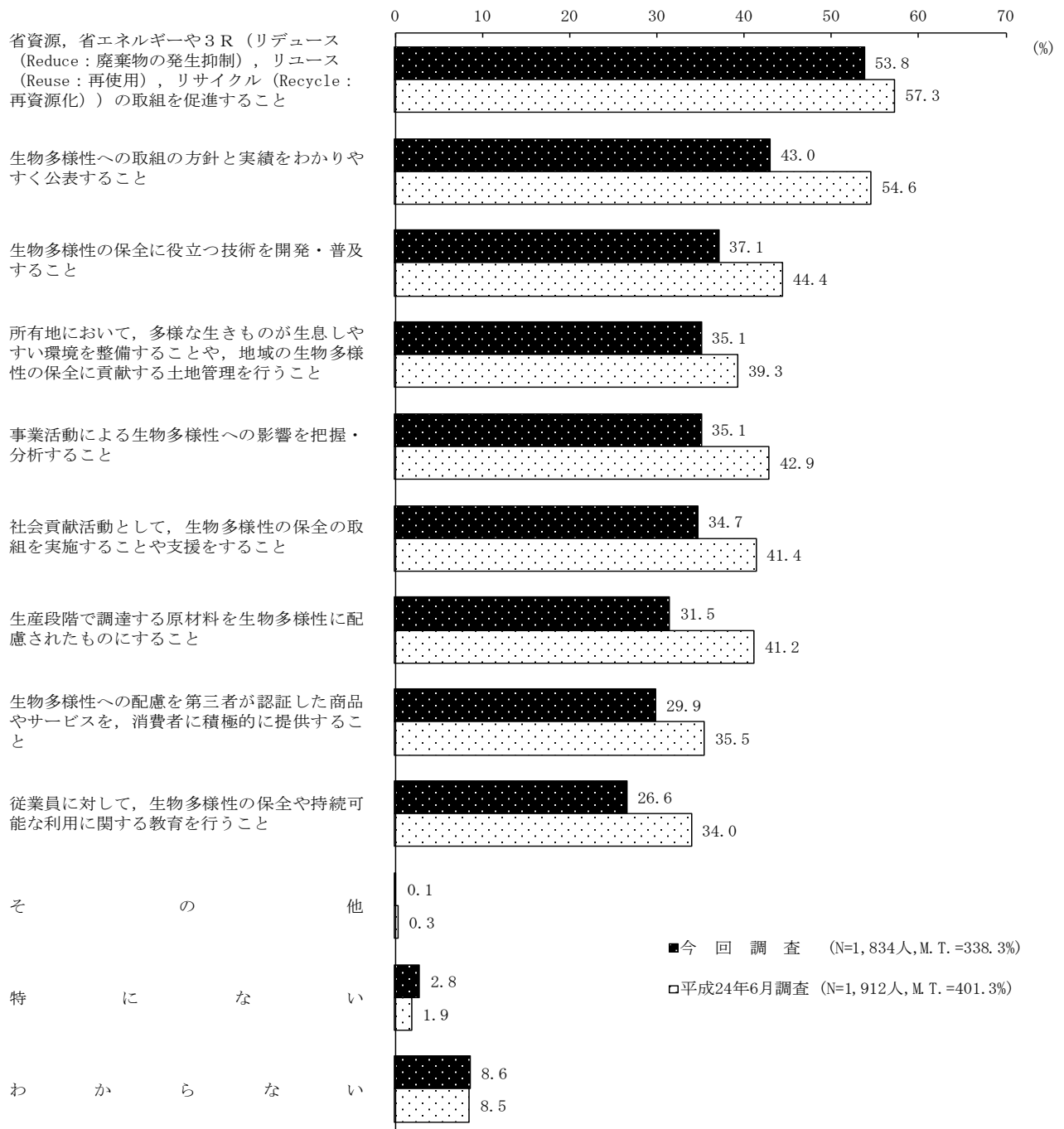
(7) 生物多様性の保全と事業活動との関わり

(複数回答, 上位2項目)

平成24年6月 平成26年7月

- ・省資源, 省エネルギーや3R (リデュース (Reduce: 廃棄物の発生抑制), リユース (Reuse: 再使用), リサイクル (Recycle: 再資源化) の取組を促進すること 57.3% → 53.8% (減)
- ・生物多様性への取組の方針と実績をわかりやすく公表すること 54.6% → 43.0% (減)

(複数回答)



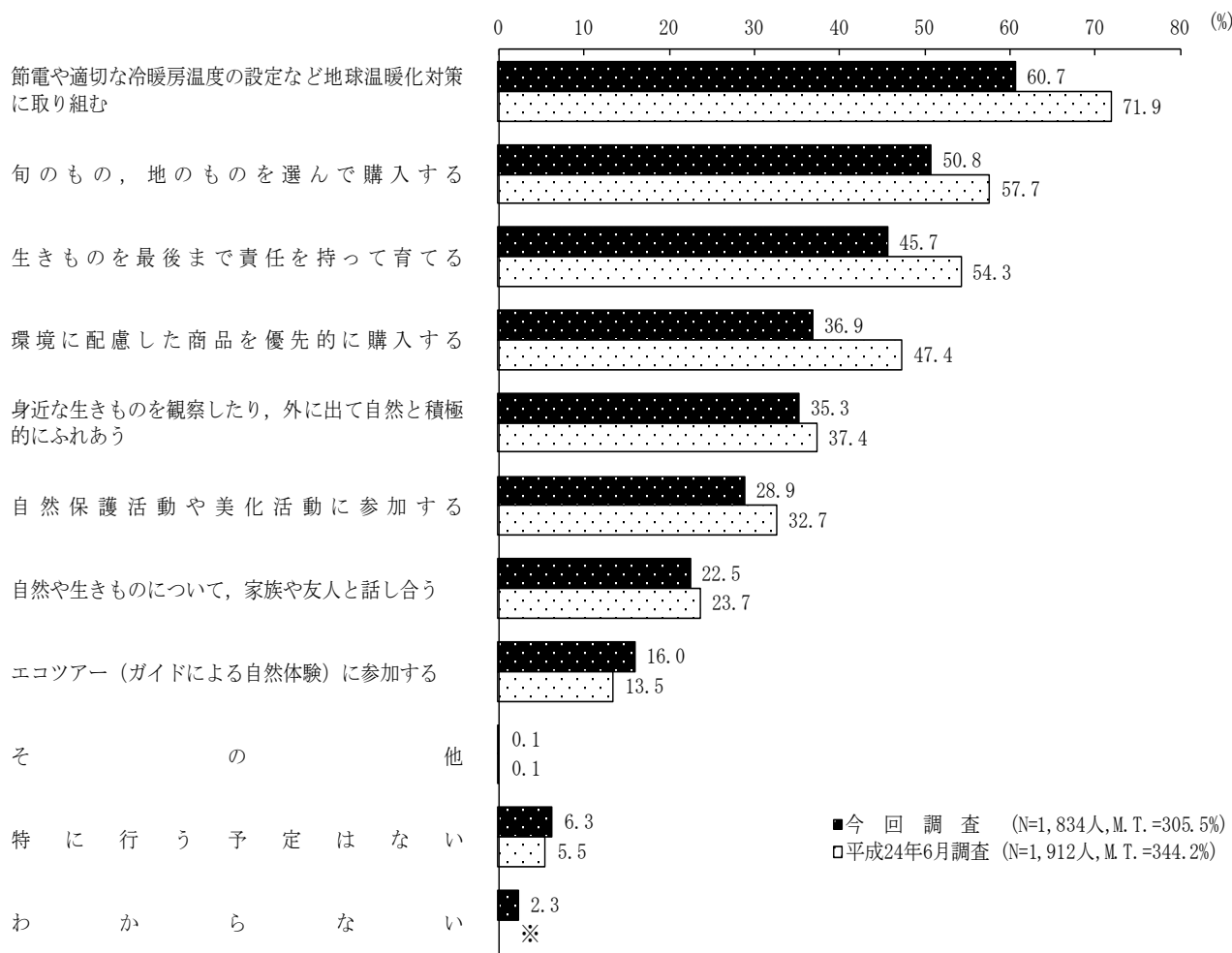
(8) 生物多様性に配慮した生活のための今後の取組

(複数回答, 上位5項目)

平成24年6月 平成26年7月

・節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む	71.9%	→	60.7% (減)
・旬のもの, 地のものを選んで購入する	57.7%	→	50.8% (減)
・生きものを最後まで責任を持って育てる	54.3%	→	45.7% (減)
・環境に配慮した商品を優先的に購入する	47.4%	→	36.9% (減)
・身近な生きものを観察したり, 外に出て自然と積極的にふれあう	37.4%	→	35.3%

(複数回答)



4 絶滅危惧種

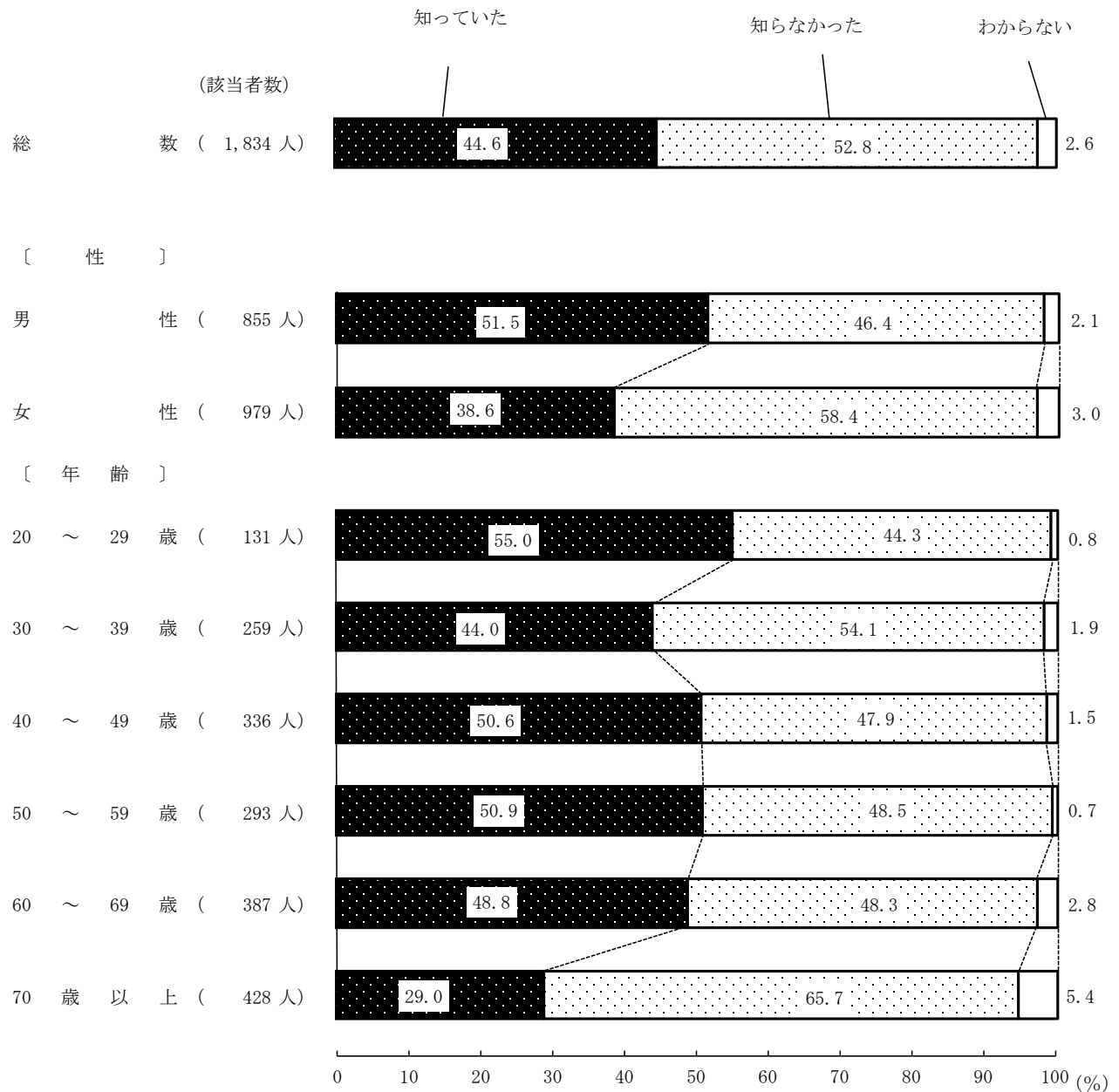
(1) レッドリストの認知度

- ・知っていた
- ・知らなかった

平成 26 年 7 月

44.6%

52.8%



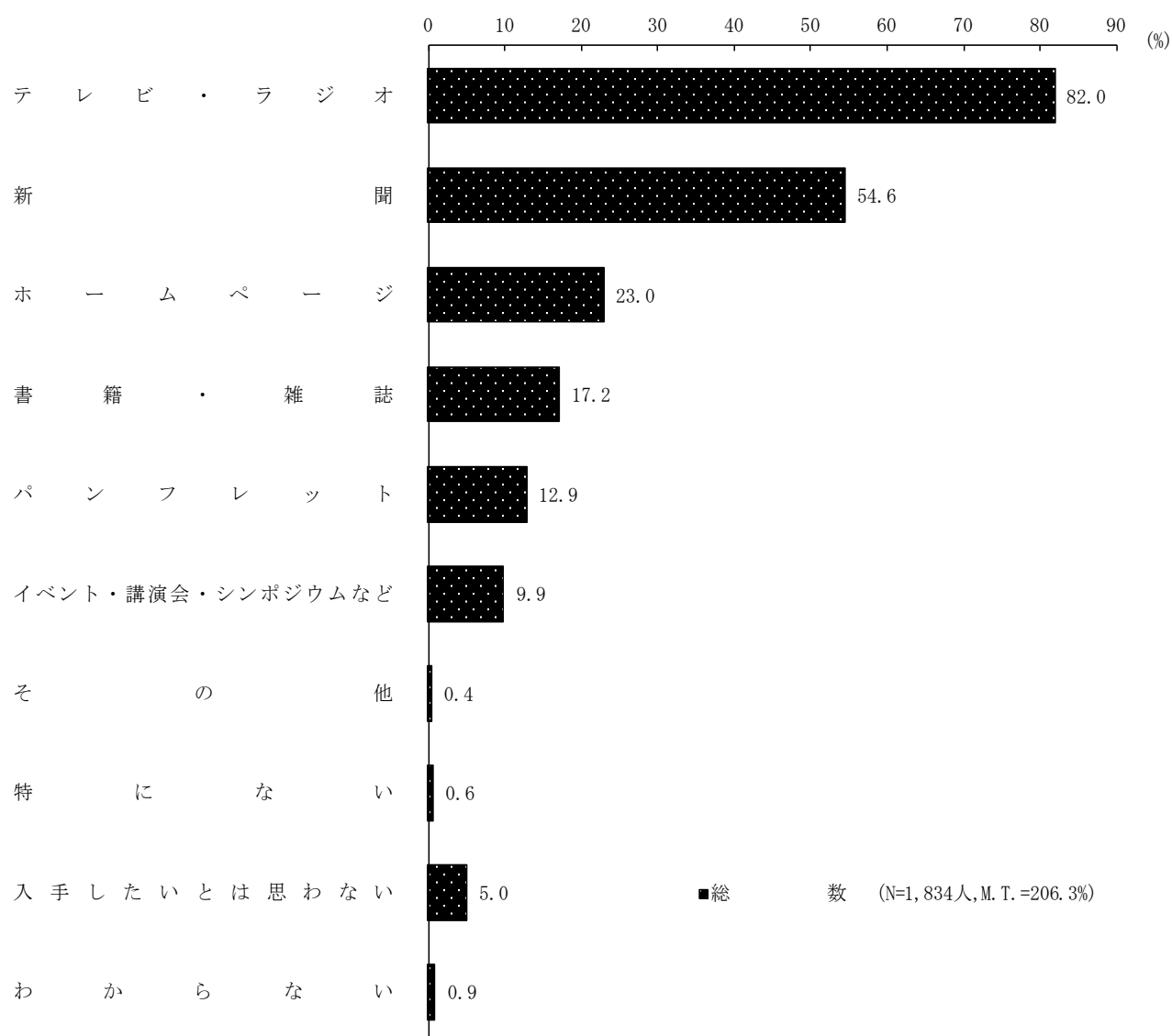
(2) 絶滅危惧種に関して希望する情報源

(複数回答, 上位 4 項目)

平成 26 年 7 月

・テレビ・ラジオ	82.0%
・新聞	54.6%
・ホームページ	23.0%
・書籍・雑誌	17.2%

(複数回答)



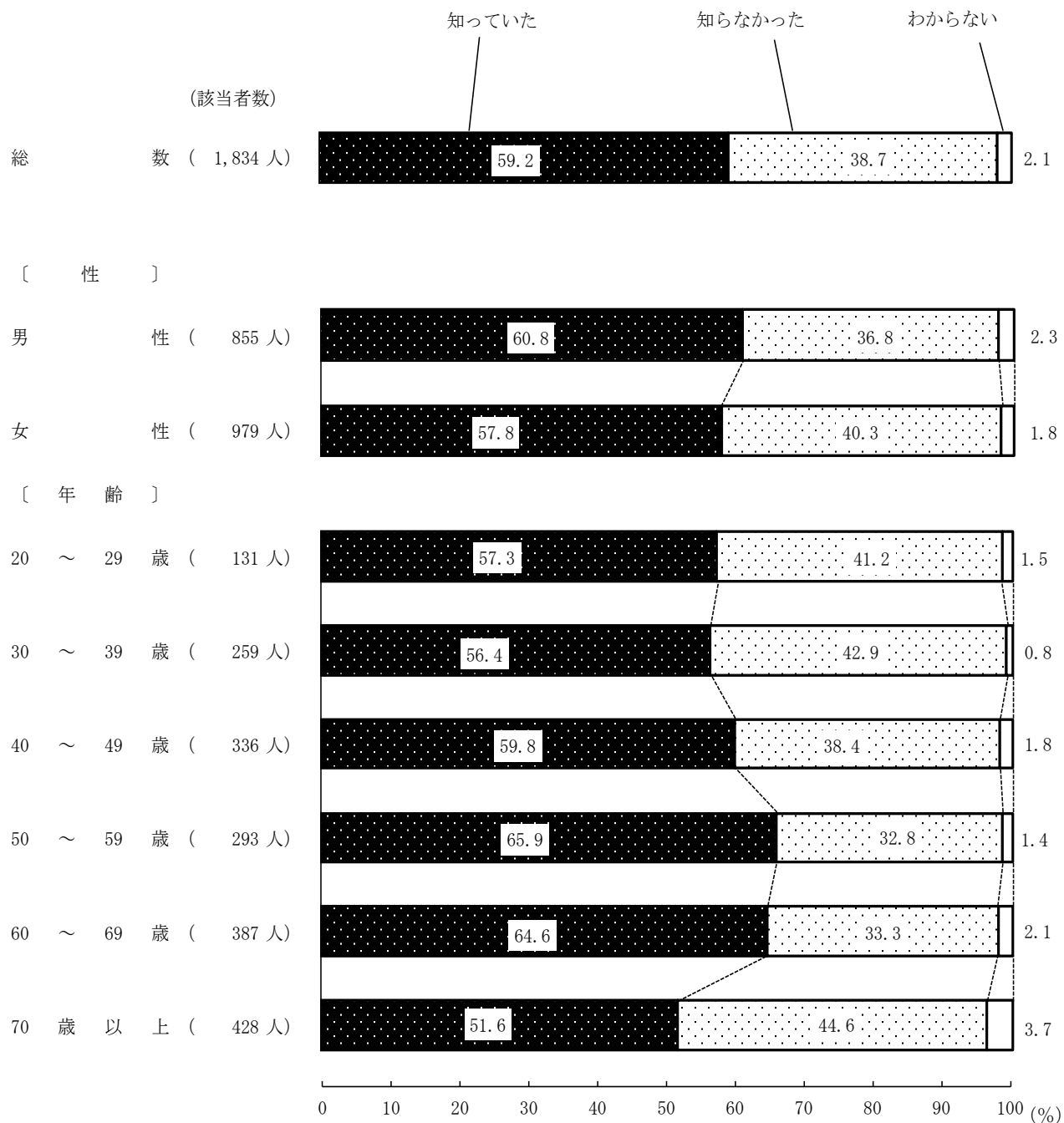
（３）動物園などにおける絶滅危惧種保全の認知度

平成 26 年 7 月

- ・ 知っていた
- ・ 知らなかった

59.2%

38.7%



(4) 絶滅危惧種保全への協力に関する意識

(複数回答, 上位2項目)

平成26年7月

- ・ 保全活動のための募金や寄付をする (希少動物の生息地買い取りのための募金など) 52.7%
- ・ 保全活動のための普及啓発活動に参加する (希少動物の交通事故防止のためのキャンペーンなど) 21.8%

(複数回答)

